





浪	あ	知	実	し	そ	は	沙	が	す	く	愛	ば	学	は	し	結	こ	は	鬼
者	れ	る	は	て	れ	な	耶	男	ら	不	く	れ	中	、	だ	城	こ	は	女
と	は	事	全	勇	は	な	が	性	り	い	る	る	で	た	沙	は	は	紅	
思	3	件	社	敢	誰	か	男	社	と	素	し	ほ	も	一	耶	一	終	葉	
わ	ヶ	が	員	な	に	っ	性	員	伸	晴	く	ど	一	千	は	流	わ	を	
れ	月	あ	が	性	対	た	社	に	び	ら	幼	の	年	後	企	っ	見		
る	前	っ	或	格	し	。	員	人	た	し	い	美	の	の	業	た	事		
男	の	た	る	に	て		に	気	長	い	人	人	東	の	「	に	に		
が	あ	だ	日	あ	も		し	が	い	脚	だ	京	の	五	勤	討			
、	る	。	か	っ	相		て	あ	長	に	っ	。	の	井	伐				
ふ	日		ら	た	手		い	る	い	黒	。		た	商	し				
ら	、		沙	。	を		や	の	た	の	よ		の	船	た				
ふ	会		耶		思		る	は	タ	タイ	ほ		存	」	。				
ら	社		の		い		は	容	イト	ス	ど		在	に					
入	の		素		や		姿	だ	スカ	カ	似		の	勤					
っ	ロ		晴		る		け	け	ート	ワ	つ		彼	め					
て	ビ		ら		し		で		ト	カ	か		女	る					
き	ー		し		く				ス	ワ	わ			。					
て	に		さ		そ				カ	し	し								
誰	浮		を		そ				ー	わ	し								

警	し	分	し	ら	さ	沙	備	と	し	を	を	そ	受	け	社	意	汚	の	と
備	て	の	ま	元	い	耶	員	し	か	庇	丁	う	付	て	員	識	れ	顔	は
も	き	額	す	気	。少	は	が	し	か	っ	度	と	の	通	も	が	放	は	な
バ	た	から	」と	に	し	血	思	た	し	て	、	、	女	っ	関	朦	題	汚	し
ツ	社	流	白	なる	し	を	い	時	か	身	出	警	社	て	わり	朧	の	れ	に
の	員	れる	い	か	なが	流	っ	と	し	体	勤	棒	員	い	を	と	服	で	す
悪	全	血	ブ	も	ら	し	き	重	か	を	し	を	を	。〃	持	し	は	真	が
さ	員	も	ラ	厭	「	なが	り	な	ぬ	投	て	呼	警	〃	た	て	っ	っ	り
と	が	厭	ウス	わ	乱	ら	殴	が	浮	げ	き	び	備	〃	ない	い	黒	、	つ
申	見	わ	が	せ	暴	「	つ	ぬ	浪	出	最	、	員	〃	よう	。〃	髪	は	き
し	る	ま	血	ん	は	乱	て	者	を	し	後	社	を	〃	で	は	不	は	な
訳	こ	で	で	。〃	し	暴	し	を	警	た	に	外	呼	〃	、	潔	は	な	し
な	に	赤	赤	ど	ない	は	ま	を	棒	沙	は	に	び	〃	、	で	不	し	に
さ	な	く	く	う	い	し	っ	を	で	耶	な	は	、	〃	、	塊	潔	に	す
が	っ	染	染	か	だ	い	の	を	殴	が	い	は	社	〃	が	で	で	が	が
相	た	ま	ま	お	だ	だ	だ	を	ろ	発	い	外	に	〃	で	き	き	で	男
ま	。〃	り	り	願	だ	だ	だ	を	う	見	、	に	押	〃	、	、	、	、	、
っ	。〃	出	出	い	だ	だ	だ	を	う	し	浮	し	し	〃	、	、	、	、	、
て	。〃	勤	勤	い	だ	だ	だ	を	う	、	浪	出	出	〃	、	、	、	、	、

そ	た	て	大	り	を	人	も	ー	弱	し	す	「	拐	見	浪	水	沙	者	平
ん	沙	い	方	も	か	に	人	プ	冠	た	ぐ	川	事	た	者	を	耶	と	身
な	耶	た	の	な	け	に	質	で	四	の	さ	島	件	顔	ら	与	耶	と	低
重	の	が	会	か	て	渡	の	暫	十	あ	ま	恵	で	だ	し	え	は	と	頭
要	社	朦	社	っ	捜	っ	専	く	歳	っ	警	三	新	と	く	、	額	も	で
な	に	朧	に	た	査	し	務	世	で	た	察	」	聞	と	な	の	に	に	、
人	来	と	来	し	を	ま	も	間	超	あ	と	載	に	病	上	治	警	警	、
物	て	し	て	意	し	っ	見	を	エ	っ	病	っ	載	院	品	療	備	室	、
を	し	識	は	識	て	た	つ	販	リ	た	に	て	っ	に	な	を	室	に	、
発	ま	の	専	の	い	事	か	わ	ー	だ	連	い	た	顔	顔	を	案	案	、
見	っ	中	務	否	る	件	ら	せ	ト	だ	絡	た	、	を	を	内	内	、	、
、	た	で	の	は	が	だ	ず	て	専	っ	を	、	、	拭	拭	し	し	、	、
助	川	も	絶	絶	い	っ	、	い	務	た	取	角	、	い	い	た	、	、	、
け	島	何	望	望	っ	こ	身	た	の	、	り	菱	、	て	て	の	、	、	、
た	だ	度	視	視	う	う	代	が	大	結	事	商	ど	あ	あ	ち	、	、	、
の	っ	か	さ	さ	に	に	金	、	ス	局	態	事	こ	げ	げ	に	、	、	、
が	た	訪	れ	れ	手	手	だ	、	ク	犯	は	の	、	、	、	、	、	、	、
沙	の	れ			が	が	が	結		人	急	専	、	、	、	、	、	、	、
耶	だ				か	か	犯	局			変	務	以	、	、	、	、	、	、
だ					か	か		犯					前	、	、	、	、	、	、
					か	か							誘	、	、	、	、	、	、

つ	逆	さ	警	島	ッ	ノ	の	そ	医	集	っ	か	た	回	害	さ	島	す	っ
こ	光	ん	察	。	ド	ッ	病	し	が	中	た	、	が	復		れ	恵	ぐ	た
い	で	で	官		か	ク	室	て	が	治		奇	、	に		た	三	さ	。
笑	少	す	か		ら	し	を	一	想	療		跡	先	は		ス	、	ま	
顔	し	す	ら		半	て	訪	ヶ	像	室		的	進	長		ト	極	病	
が	見	と	あ		身	病	れる	月	し	か		に	医	い		レ	度	院	
印	え	紹	な		を	室	事	後	て	ら		若	療	期		ス	の	に	
象	に	介	た		助	に	と	、	い	一		い	を	間		か	栄	運	
的	く	さ	を		け	入	な	警	た	般		が	施	が		ら	養	ば	
で	い	れ	助		こ	っ	っ	察	日	病		手	す	か		く	失	れ	
、	が	軽	け		し	た	た	に	数	棟		厚	手	か		る	調	、	
「	、	く	て		て	沙	っ	伴	の	に		い	厚	か		記	と	集	
助	川	会	く		窓	耶	っ	わ	半	移		看	か		憶	長	中		
け	島	釈	れ		の	が	っ	れ	分	動		護	か		の	期	治		
て	は	を	た		外	見	っ	て	以	す		が	か		酪	に	療		
い	端	す	「		を	た	っ	沙	下	る		効	か		酊	わ	を		
た	正	る	結		見	の	っ	耶	だ	の		い	わ		と	た	う		
だ	な	沙	城		て	は		は	っ	は		た	れ		言	り	け		
き	人	耶	沙		い	は		川	た	主		て	い		語	束	る		
、	懐		耶		る	、		島	っ	治		い	い		障	縛	川		

あ	り	が	と	う	ご	ざ	い	ま	し	た	「	と	い	う	、	す	こ	し	擦
れ	た	低	い	声	が	魅	力	的	な	男	性	だ	っ	た	。				
沙	耶	は	一	瞬	と	き	め	い	た	事	が	バ	レ	そ	う	で	恥	ず	か
し	く	な	っ	て	「	い	え	・	・	あ	た	り	ま	え	の	事	を	し	
た	だ	け	で	す	」	と	言	う	の	が	精	一	杯	だ	っ	た	。		
「	僕	を	庇	っ	て	額	を	怪	我	さ	れ	た	と	か	、	本	当	に	申
し	訳	あ	り	ま	せ	ん	」												
「	い	え	・	・	あ	れ	は	事	故	で	す	か	ら	、	誰	も	悪	く	
は	あ	り	ま	せ	ん	の	で	」											
「	貴	方	は	優	し	く	て	勇	気	の	あ	る	、	現	代	で	は	珍	し
い	ほ	ど	の	素	晴	ら	し	い	女	性	で	す	ね	」					
と	会	話	を	し	て	い	る	時	に	、	少	し	乱	暴	に	ド	ア	を	開
け	入	っ	て	き	た	の	が	川	島	の	妻	「	川	島	有	希	」	で	あ
っ	た	。																	
有	希	は	頭	が	良	く	育	ち	も	良	い	印	象	で	美	し	い	が	、
ど	こ	か	冷	め	た	い	雰	囲	気	の	あ	る	女	性	だ	っ	た	。	
有	希	は	沙	耶	を	上	か	ら	下	ま	で	ジ	ツ	と	見	て	川	島	に
「	ど	な	た	？	」	と	聞	い	た	。									
「	僕	を	助	け	て	く	れ	た	五	井	商	船	の	結	城	沙	耶	さ	ん
で	す	よ	」	と	告	げ	た												

つ	め	そ	薄	時	病	院	川	沙	硬	り	有	さ	こ	沙	は	川	引	し	有
て	た	れ	々	の	院	を	島	耶	く	に	希	い	れ	耶	無	島	取	た	希
き	、	か	肌	不	の	後	夫	が	し	も	は	」	で	は	い	は	り	は	は
た	あ	ら	で	思	玄	に	婦	別	た	冷	「	い	失	「	だ	「	く	。そ	「
。聞	る	3	感	議	関	し	の	れ	ほ	たい	そ	え	礼	い	ろ	だ	ろ	。そ	「
こ	日	ヶ	じ	な	を	た	言	の	ど	い	れ	、	し	、	う	さ	そ	。そ	「
え	、	月	る	違	出	時	い	の	だ	対	換	今	ま	、	？	い	ろ	。そ	「
て	五	が	沙	和	た	ふ	争	の	だ	応	拶	日	ま	、	？	い	主	。そ	「
き	井	過	耶	感	時	と	う	の	。た	に	を	は	だ	命	ま	人	人	。そ	「
の	商	ぎ	あ	が	ふ	川	声	の	。た	警	し	ご	ど	の	、	が	を	。そ	「
は	船	事	っ	気	と	島	を	換	。た	備	て	め	う	恩	、	着	を	。そ	「
、	の	件	た	に	川	有	背	拶	。た	の	ド	ん	ぞ	人	替	替	を	。そ	「
川	沙	も	の	、	島	希	中	だ	。た	警	ア	あ	お	に	え	え	を	。そ	「
島	耶	、	は	深	有	の	に	け	。た	察	を	そ	大	そ	さ	さ	を	。そ	「
恵	に	ほ	あ	い	顔	顔	聴	め	。た	官	閉	ば	事	、	せ	せ	を	。そ	「
三	電	と	っ	因	を	を	き	た	。た	す	め	せ	に	、	と	ま	を	。そ	「
の	話	ぼ	っ	縁	見	見	な	病	。た	ら	た	と	し	あ	と	す	を	。そ	「
す	が	り	っ	を	た	た	が	室	。た	ら	病	と	て	ま	と	の	を	。そ	「
	か	が	っ				ら	で	。た	病	室	く	く	で	方	お	を	。そ	「
	か	さ	っ				病		。た	を	で	だ	だ	方	お	ま	を	。そ	「

お	川	に	け	川	染	不	グ	上	少	い	沙	待	だ	戸	が	川	ご	先	こ
互	島	逢	て	島	ま	思	リ	の	し	た	耶	ち	・	惑	島	招	日	し	
い	は	う	笑	恵	っ	議	ー	ス	ポ	。別	は	合	・	ん	の	待	の	擦	
に	妻	恋	顔	三	て	と	ン	カ	リ	に	遠	わ	・	だ	声	した	お	れ	
軽	が	人	で	は	い	沙	の	ー	ユ	特	目	せ	・	の	を	び	詫	た	
く	急	同	手	交	る	耶	コ	ト	ー	別	か	た	・	は	聞	と	び	低	
挨拶	な	士	を	差	感	の	ー	、	ム	な	ら	銀	・	沙	いた	誘	と	い	
を	旅	の	振	点	じ	い	を	襟	の	服	も	座	・	耶	と	い	お	声	
交	行	よ	っ	の	な	る	羽	に	あ	を	一	4	・	も	き	の	世	だ	
わ	で	う	て	向	の	場	織	フ	る	着	際	丁	・	会	、	電	話	っ	
した	来	で	いた	こ	所	が	っ	ァ	白	て	目	目	・	う	胸	話	な	た	
。	られ	あ	、	う	が	ふ	て	ー	い	い	立	交	・	約	の	だ	っ	。	
	ない	る	ま	か	わ	わり	い	を	る	る	つ	差	・	束	奥	た	た		
	こと	あ	る	ら	と	と	わ	あ	わ	わ	オ	点	・	を	で	っ	た		
	を	る	で	、	浅	黄	し	し	け	け	ー	行	・	した	ト	た	た		
	謝	あ	久	早	色	に	く	ら	でも	でも	ラ	き	・	沙	ク	た	た		
	り	る	し	々	黒	膝	く	っ	なく	なく	を	交	・	耶	ン	た	た		
		る	ぶ	と	見		く	た	、	、	放	う	・	だ	と	た	た		
		る	り	見	つ		く	モ			っ	人	・	っ	心	へ	へ		
		る		つ			く	ス				々	・	の					

い	聞	楽	能	次	揺	ー	フ	を	ワ	た	に	席	親	こ	ト	銀	な	か	妻
つ	き	し	し	々	ら	の	ル	し	イ	。	特	に	し	こ	ラ	座	笑	べ	の
の	り	ま	な	と	い	ワ	ボ	た	ン		別	着	い	こ	ン	ソ	顔	た	こ
間	ー	せ	が	運	だ	イ	デ	。	を		な	く	人	は	ニ	ニ	に	を	を
に	ド	せ	ら	ば	。	ン	イ		頼		素	な	間	入	人	ー	戻	話	を
か	も	る	話	れ		グ	ー		み		材	し	し	っ	ビ	っ	た	す	と
川	し	術	が	て		ラ	の		、		を	か	得	く	ル	近	。	き	き
島	て	を	弾	く		ス	し		ま		用	招	て	れ	。	く		に	に
は	く	心	ん	る		越	っ		ず		意	待	い	。		の		少	し
自	。	得	だ	フ		し	か		は		し	し	っ		地		し	し	苦
分		て	、	ラ		に	り		川		た	ない	た		下		。	。	々
の		い	川	ン		沙	し		島		こ	場	っ		に			。	。
過		た	島	ス		耶	た		の		と	所	た		あ				
去		、	は	料		と	わ		全		を	だ	の		る				
を		相	話	理		川	い		快		説	っ	だ		、				
話		手	上	を		島	の		を		明	た	の		有				
し		の	手	二		の	祝		祝		し	て	だ		名				
て		話	で	人		笑	い		乾		て	く	。		レ				
聞		も	人	は		顔	の		杯		れ	。			ス				
か		良	を	堪		が	ボ		杯		。								
		く					ル												

代々影で守り続けた結城家だったのだ。	沙耶の実家は裏善光寺、つまり北向き観音を	強く魅かれるのが腑に落ちた。	沙耶はここまで聞いて、やっと自分が川島に	退治をした武将であった。	野県）に於いて国守から勅命を受け鬼女紅葉	平朝臣維茂は安和二年に鬼無里村（現在の長	もち）であった。	はるか昔、平朝臣維茂（たいらのあそんこれ	父の家系は平家の末裔だった、祖先を遡ると	今も判らないという。	何故母親は自分を隠すように暮らしたのか？	いう。	そりと暮らし、母方の苗字を名乗ったのだと	母は自分を守るために実家にも戻らず、ひっ	結局は迷宮入りになってしまった。	れた可能性が有る」との警察の見解だったが	小学生の頃、父親が失踪、「事件に巻き込ま	川島と言う苗字は実は母親の苗字で、川島が	せてくれた。
--------------------	----------------------	----------------	----------------------	--------------	----------------------	----------------------	----------	----------------------	----------------------	------------	----------------------	-----	----------------------	----------------------	------------------	----------------------	----------------------	----------------------	--------

実家の結城家が激しく燃えている、両親も行	かけてきたのは実家の近くに住む叔母だった	話そうとした時、沙耶の携帯が激しく鳴った	暫く沈黙が続き見つめあう二人、川島が何か	して二人の心の距離が無くなった。	沙耶も自分の出生を川島に話した時、一瞬に	り、鬼女紅葉を討伐したのだと言う。	霊夢を見て、白髪の老人から降魔の剣を授か	向き観音に参籠して、十七日間の満願の日に	すべく現世でのご利益を祈願するため、北	持つ外法（妖術・魔法・呪文・呪い）に対抗	平朝臣維茂が鬼女紅葉を討伐する際、紅葉の	ったのである。	伝えから表と裏の善光寺と言われるようにな	初めて現世も来世も幸せになれるという言い	つまり表の善光寺と裏の善光寺にお参りして	世でのご利益を祈願する寺なのである。	行くために祈願する寺であり北向き観音は現	それは善光寺は来世の幸せを願う極楽浄土に	何故、北向き観音が裏善光寺といわれるのか、
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	------------------	----------------------	-------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------------	---------	----------------------	----------------------	----------------------	--------------------	----------------------	----------------------	-----------------------

川島は手早くグリーン車を予約して、	39分着の予定である。	別所温泉のある上田駅に到着するのが23時	5号に乗車した。	東京発22時3分長野新幹線あさま55	沙耶と川島は東京駅に来ていた	闇に消えていった。	影で暗躍する「潜む夜又」は薄笑いを浮かべ	沙耶と川島。	運命とも宿命ともいえる出会いに翻弄される	切符を手配して向かうこととなった。	沙耶の承諾を得て携帯で長野行きの二人分の	沙耶一人で向かわせるのは危険だと判断した	げたが、川島は異常なほどの胸騒ぎがして、	沙耶は急ぎ実家のある長野に向かうことを告	聞いた。	そんな沙耶に驚いた川島は電話の後、事情を	グラスの割れる音が店内に響いた。	驚きのあまりワイングラスを床に落とした、	方が判らないとの知らせだった。
-------------------	-------------	----------------------	----------	--------------------	----------------	-----------	----------------------	--------	----------------------	-------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	------	----------------------	------------------	----------------------	-----------------





力	が	沙	柄	長	器	な	と	よ	沙	あ	そ	表	ぼ	の	ン	は	現	強	る
を	「	耶	に	さ	「	ん	い	う	耶	る	う	面	し	す	と	無	場	い	た
必	蘇	が	北	は	降	と	う	と	は	愛	で	は	き	る	い	検	と	た	め
要	る	子	斗	5	魔	中	し	し	川	染	あ	焼	木	方	か	証	言	に	、
と	恐	供	七	寸	の	か	た	た	島	桂	る	け	材	向	と	も	わ	、	ガ
す	ろ	の	星	ほ	だ	ら	そ	そ	を	と	、	焦	が	を	こ	わ	、	ソ	リ
る	し	頃	が	ど	っ	出	の	の	呼	同	、	げ	横	見	だ	、	沙	リ	ン
、	き	から	描	の	た	て	は	古	ん	じ	こ	た	わ	る	た	耶	等	を	撒
お	悪	祖	か	短	の	き	は	い	で	老	の	っ	っ	と	い	は	手	いた	放
方	鬼	母	れ	刀	は	た	古	る	観	木	観	て	て	時	た	が	かり	た	火
が	が	に	て	で	い	の	い	時	音	で	音	い	い	だ	、	に	なる	、	疑
現	蘇	言	い	あ	っ	は	光	眩	像	作	は	姿	る	た	観	物	、	い	が
れ	る	わ	る	、	た	は	と	い	を	ら	北	か	い	た	っ	、	、	、	、
、	時	れ	、	飾	、	伝	も	に	二	れ	向	た	、	、	、	、	、	、	、
そ	、	た	、	り	、	説	に	、	つ	た	き	、	、	、	、	、	、	、	、
の	観	こ	、	も	、	の	割	ゴ	に	像	観	確	、	、	、	、	、	、	、
時	音	と	、	無	、	武	れ	ト	、	な	音	か	、	、	、	、	、	、	、
に	様	、	、	い	、		た	ン	だ	の	の	に	、	、	、	、	、	、	、
は	の	御	、	が			だ		、	だ	庭	に	、	、	、	、	、	、	、

そ	空	鬼	甲	し	の	刀	光	身	を	川	た	説	そ	を	沙	実	子	り	こ
こ	か	女	冑	き	意	身	を	に	た	島	。	の	れ	狙	耶	は	供	、	の
に	ら	紅	を	も	識	の	放	力	た	は		鬼	ほ	っ	は	本	の	世	観
一	の	葉	着	の	は	ま	つ	を	た	短		女	ど	て	の	当	を	を	音
際	光	が	た	を	空	ぶ	刀	と	た	刀		紅	ま	の	犯	の	救	を	像
大	に	石	兵	上	を	し	へ	変	た	の		葉	で	行	だ	こ	う	が	に
き	弾	の	隊	空	飛	い	と	わ	か	一		が	に	っ	の	武	器	お	前
な	か	壇	が	か	ん	光	わ	っ	気	に		蘇	こ	た	の	器	が	前	の
武	れ	上	壕	ら	で	中	っ	。	に	刀		っ	の	も	の	が	現	手	と
将	て	で	を	見	意	で	。		身	身		た	の	、	知	れ	る	と	そ
が	壇	呪	越	て	識	意			は	は		と	確	ら	。	。	。	の	方
走	か	文	え	い	が	時			い	伸		信	信	さ				の	手
り	ら	を	唱	る	時	を			な	び		し	。	れ				が	が
こ	落	え	る	。	を	遡			い	黄				た					手
ん	ち	る	が		る	川			。	色				。					が
で	る				。	島				の									が
き	。									。									鍵
て																			と
黄																			な
色																			。

い	新	着	て	寒	耶	時	災	そ	っ	な	て	赤	消	ゆ	城	し	し	首	い
を	幹	替	いた	い	と	空	現	こ	た	ん	川	子	え	き	の	か	は	は	光
愛	線	えた	ホ	現	川	を	場	こ	の	と	島	を	た	赤	裏	し	簡	を	を
し	で	た	テ	場	島	越	に	こ	自	自	は	抱	た	子	を	、	単	放	つ
く	の	二	ル	を	は	え	戻	で	分	「	「	いた	の	額	走	、	に	つ	刀
守	不	人	へ	後	感	た	っ	一	の	あ	」	女	に	に	る	落	ゴ	で	で
る	思	は	ゆ	に	じ	戦	て	気	妻	っ	が	吸	込	赤	ち	ロ	鬼	女	紅
気	議	バ	く	し	て	い	い	に	「	と	何	い	ま	子	た	ン	女	葉	の
持	な	ー	。°	上	い	の	た	映	有	い	気	れ	れ	を	首	と	・	の	首
ち	体	で	熱	田	た	火	。°	像	希	、	な	る	う	抱	か	落	・	を	を
が	験	話	い	市	。°	蓋		は	」	そ	く	よ	いた	女	ら	ち	・	は	は
時	か	を	シ	内		が		消	の	と	振	う	を	を	青	た	・	ね	ね
間	ら	し	ャ	の		幕		え	母	確	り	に	あ	追	い	。°	・	た	た
と	心	て	ワ	川		を		焦	親	信	返	し	げ	っ	中		・	を	を
も	の	い	ー	島		開		げ	に	し	っ	た	て	て	に		・	は	は
に	奥	る	を	が		け		臭	そ	た	っ	た	し	球	飛		・	ね	ね
強	底	。°	あ	予		る		い	っ	の	く	顔	て	は	ん		・	た	た
く	か		び	約		の		結	く	を	り	を	飛	で			・	を	を
な	ら		て	し		を		城	り	だ	驚	見	ん				・	は	は
	互		て	し		沙		家	だ	だ	いた						・	ね	ね
			て	し				の	だ	だ							・	た	た
			て	し				火	だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し					だ	だ							・	た	た
			て	し					だ	だ							・	を	を
			て	し					だ	だ							・	は	は
			て	し					だ	だ							・	ね	ね
			て	し															

始	ま	事	普	く	昨	い	透	ホ	が	二	溢	め	性	沙	耶	自	言	ワ	っ
ま	で	が	段	疼	夜	北	き	テ	し	人	れ	て	と	耶	は	然	葉	イ	っ
る	痛	あ	な	い	か	斗	通	ル	た	が	た	だ	キ	も	自	を	ン	て	
激	み	る	ら	て	ら	七	る	の	。	め	、	っ	ス	一	分	必	を	の	
し	が	の	危	い	沙	星	ほ	部		ぐ	重	た	は	人	の	要	飲	を	
い	続	だ	険	い	耶	の	ど	屋		り	ね	唇	経	前	唇	と	み	感	
戦	く	が	を	。	の	あ	白	中		合	た	の	験	の	が	し	な	じ	
い	の	、	感		背	ぎ	い	、		っ	火	火	し	大	白	ない	が	て	
を	は	こ	じ		中	が	い	溶		理	傷	傷	て	人	い	時	ら	い	
暗	初	ん	た		の	現	い	け		由	し	ま	い	の	光	間	も	。	
示	め	な	時		ア	れ	。	る		が	な	融	る	を	に	が	指		
し	て	に	一		ザ	て		よ		わ	い	合	わ	感	変	過	を		
て	て	長	瞬		北	い		う		か	灼	す	っ	覚	わ	ぎ	絡		
い	。	く	痛		斗	。		な		た	熱	る	た	に	る	て	め		
る	。	ア	み		七			抱		よ	の	感	と	を	の	見	あ		
よ	明	ザ	を		星			擁		う	じ	覚	こ	感	を	つ	う		
う	日	が	発		が			が		な	さ	に	ろ	じ	感	め	あ		
に	か	出	す		、			続		気	に	涙	か	じ	じ	あ	う		
	ら	ま	る		ひ			く			、	が	初	沙	。	。	、		

は	事	服	イ	フ	リ	う	リ	川	く	合	沙	ら	ド	時	バ	沙	ら	翌	思
夢	し	ま	ス	ェ	ッ	。	ー	島	お	う	耶	大	ア	、	ス	耶	出	朝	え
に	て	で	ア	イ	ジ		シ	は	お	と	は	き	ス	ド	ロ	は	て	、	た
も	い	全	ー	ス	の		ョ	長	帰	恥	右	な	コ	ア	ー	は	行	。	。
思	た	て	ミ	の	タ		ッ	野	り	ず	手	紙	ー	を	ブ	は	っ		
い	の	揃	ー	マ	ク		プ	市	と	か	で	袋	ノ	着	つ	ゆ	っ		
も	だ	え	の	ウ	テ		で	内	言	し	戦	を	ッ	て	く	り	。		
し	か	て	ナ	ン	ィ		戦	に	っ	そ	闘	抱	ク	レ	と	シ			
な	ら	き	イ	テ	カ		用	あ		う	の	え	す	ビ	川	ャ			
二	、	て	フ	ン	ル		服	る		に	の	て	る	の	島	ワ			
人	翌	いた	か	ジ	ブ		を	、		下	服	い	音	ス	だ	ー			
だ	日	た	ら	ャ	ー		買	登		を	用	る	が	イ	っ	を			
っ	に	。	マ	ケ	ツ		っ	山		向	品	聞	こ	ッ	入	浴			
た	戦		グ	ツ	と		て	用		き	店	こ	え	チ	び				
。	闘		ラ	ト	ザ		き	品		な	と	え	た	を	た				
	服		イト	そ	・		た	店		が	。	。		入	後				
	を		や	し	ノ		と	と		ら				れ	、				
	着		迷	て	ー		言	ミ		、				た	白				
	る		彩	、	ス			リ		小				。	い				
	と			ス	。			タ		さ									

有	成	楓	し	奥	な	に	祖	平	驚	居	一	て	ン	沙	の	生	川	す	靴
希	、	は	て	の	ぜ	滅	平	将	王	城	方	い	が	耶	あ	時	島	ら	も
い	紅	紅	有	間	彼	ぼ	朝	門	、	、	そ	た	美	は	、	代	が	登	ハ
や	葉	葉	希	か	ら	さ	臣	の	伊	戸	の	。	し	そ	筋	、	ス	れ	イ
紅	の	に	の	ら	が	れ	維	従	賀	隠	頃		い	の	肉	、	ー	な	ヒ
葉	妖	仕	母	復	活	た	茂	属	瀬	の	、		後	を	持	ツ	か	い	ー
の	術	え	親	し	た	は	(	で	の	荒	鬼		姿	っ	っ	ら	。	。	ル
正	で	る	役	た	の	ず	た	あ	紅	倉	無		を	ま	て	戦			で
体	化	妖	を	は	あ	で	い	っ	葉	山	村		頼	っ	闘				は
は	け	魔	演	川	ろ	あ	ら	た	四	、	の		も	た	服				戦
幼	物	で	じ	島	う	あ	の	武	天	岩	こ		し	背	に				い
い	に	毒	て	の	か	そ	あ	将	王	屋	こ		そ	中	着				ど
頃	変	蛇	い	妻	？	ん	そ	の	が	の	こ		う	か	替				こ
の	わ	ヤ	た	有		こ	ん	末	鎮	奥	こ		に	ら	え				ろ
名	っ	マ	た	希		れ	こ	裔	座	に	こ		眩	へ	て				か
を	た	カ	た	、		も	れ	で	し	鬼	こ		し	の	い				普
呉	た	ガ	た	そ		ち	も	川	て	武	こ		そ	よ	る				通
葉	た	シ	た	そ		。	ち	島	い	、	こ		う	う	。				に
と	た	が	た	そ			。	の	る	熊	こ		に	の					山
い	た	が	た	そ				先	。	武	こ		見	ラ					に
	あ	老												イ					



魔	し	そ	川	結	結	っ	目	の	を	平	た	年	成	た	し	た	は	そ	も	
の	た	し	島	城	婚	っ	的	人	手	朝	ぶ	後	人	た	た	川	川	の	の	
劍	よ	て	の	家	し	た	は	間	に	臣	ら	だ	し	。	島	島	島	た	た	
」	う	、	偽	の	て	。	「	で	持	維	か	っ	。	。	の	の	の	た	が	
を	に	、	装	一	十		降	あ	た	茂	し	た	。	母	母	母	の	た	。	
手	に	川	誘	人	年		魔	る	な	の	夫	一	。	が	母	母	父	三	。	
入	見	島	拐	娘	が		の	、	い	子	婦	流	。	長	が	母	に	十	。	
れ	せ	が	を	、	過		劍	殺	限	孫	に	企	。	い	間	を	言	年	。	
よ	か	誘	計	沙	ぎ		」	す	り	と	な	業	。	間	殺	を	葉	前	。	
う	け	拐	画	耶	た		を	の	恐	は	っ	に	。	隠	そ	を	巧	に	。	
と	て	犯	し	の	頃		探	は	れ	い	た	勤	。	れ	う	を	み	少	。	
画	さ	か	。	存	、		し	い	る	つ	め	る	。	て	と	を	に	女	。	
策	せ	ら		在	東		出	つ	に	で	川	を	。	暮	し	を	近	の	。	
し	「	命		を	京		し	で	足	も	妖	を	。	ら	の	亡	寄	姿	。	
た	降	か		知	に		破	り	り	「	術	察	。	し	だ	者	り	に	。	
だ	」	ら		っ	住		壊	な	い	降	で		。	っ	っ	に	、	変	。	
っ	」	が		た	ん		す	い	、	魔	い		。	た	た	し	。	身	。	
た	」	ら		紅	で		る	た	だ	の	。		。	っ	っ	し	。	し	。	
た	」	脱		葉	い		が	。	。	。			。	っ	っ	し	。	た	。	
た	」	出		は	る		、	。	。	。			。	っ	っ	し	。	紅	。	

大	川	し	紅	強	お	れ	気	悲	雷	昨	紅	に	し	て	温	沙	子	四	紅
き	島	て	葉	烈	の	に	づ	鳴	鳴	夜	葉	渡	か	家	泉	耶	の	天	葉
な	と	い	と	に	れ	な	く	を	が	、	で	す	し	に	に	と	末	王	は
南	沙	る	四	燃	！	っ	と	上	轟	あ	あ	こ	、	火	来	川	裔	を	、
京	耶	よ	天	え	維	て	首	げ	き	っ	っ	と	、	を	た	島	、	復	こ
錠	は	う	王	上	茂	い	に	た	、	た	た	は	那	放	紅	が	活	の	の
を	結	に	が	が	め	た	真	紅	首	あ	あ	な	り	た	葉	銀	さ	世	世
開	城	見	見	ら	と	の	っ	葉	に	ア	あ	ろ	「	の	は	座	せ	界	を
け	家	え	上	せ	毒	だ	赤	で	強	ザ	っ	う	降	の	で	逢	ね	を	征
て	の	た	げ	た	づ	っ	な	あ	烈	が	た	と	魔	沙	っ	っ	ば	服	す
中	書	。	た	の	い	た	ア	っ	な	現	は	は	の	耶	た	日	な	る	た
に	物		北	だ	て	っ	ザ	た	痛	れ	、	大	親	の	一	先	ら	た	め
入	蔵		斗	っ	青	ミ	が	走	み	ミ	大	を	を	の	足	に	不	た	は
っ	に		七	た	白	が	り	が	ミ	き	誘	川	を	先	別	ず	た	、	
た	き		星	っ	い	ズ	走	、	走	ミ	を	拐	島	殺	に	所	、	だ	配
、	て		は	っ	復	腫	り	大	り	ミ	し	、	害	し	所		だ	の	下
蔵	い		輝	っ	讐		、	き	大	ミ	た	瞬	し				の	だ	の
の中	た		きを	っ	の		き	な	き	ミ	間	間							の
は	っ		を増	っ	炎		な	な	な	ミ	、								の

平	の	ケ	沙	川	と	表	状	沙	も	広	妖	勿	の	が	て	な	物	沙	か
安	よ	ッ	耶	島	め	面	の	耶	見	い	魔	論	だ	っ	く	の	と	耶	び
時	う	ト	は	に	ら	に	行	が	つ	蔵	相	こ	と	た	る	だ	言	が	臭
代	な	に	お	頼	れ	は	李	ふ	か	の	手	の	い	っ	「	っ	っ	こ	い
は	美	入	札	ん	て	御	が	と	ら	中	な	弓	い	た	破	、	こ	こ	空
丸	し	れ	を	で	い	札	縛	見	な	を	ら	で	。〃	に	邪	そ	に	来	気
木	く	た	破	梯	。〃	が	り	上	い	探	十	。〃	。〃	来	の	れ	た	が	が
弓	赤	、	れ	子	。〃	貼	付	げ	。〃	す	分	。〃	。〃	理	は	い	理	淀	で
が	い	細	な	で	。〃	ら	け	た	。〃	こ	の	。〃	由	は	た	武	由	ん	い
主	弓	長	い	登	。〃	れ	ら	天	。〃	と	殺	。〃	、	、	た	器	は	で	た
流	が	い	よ	り	。〃	て	ら	井	。〃	1	傷	。〃	こ	祖	。〃	が	、	い	。〃
だ	出	蓋	う	取	。〃	い	て	の	。〃	時	能	。〃	の	母	。〃	祖	祖	た	。〃
っ	て	を	に	っ	。〃	て	て	梁	。〃	間	力	。〃	弓	の	父	父	が	。〃	。〃
た	き	あ	慎	っ	。〃	て	て	の	。〃	、	を	。〃	は	「	が	が	結	。〃	。〃
が	た	け	重	も	。〃	て	て	上	。〃	ど	持	。〃	天	お	が	が	城	。〃	。〃
こ	。〃	る	に	ら	。〃	て	て	に	。〃	こ	っ	高	と	と	が	が	家	。〃	。〃
の	。〃	と	剥	っ	。〃	て	て	細	。〃	を	っ	く	し	な	中	中	の	。〃	。〃
「	。〃	美	が	っ	。〃	て	て	長	。〃	探	っ	舞	な	な	に	に	宝	。〃	。〃
破	。〃	術	し	っ	。〃	て	て	い	。〃	し	っ	い	な	出	出	出	宝	。〃	。〃
	。〃	品	ポ	っ	。〃	て	て	筒	。〃	て	っ	上	な	出	出	出	宝	。〃	。〃

引	の	勝	イ	弓	沙	錆	の	竹	一	り	が	長	ん	一	る	音	安	丸	邪
き	リ	を	ン	部	耶	び	羽	で	緒	短	7	さ	で	見		堂	曇	木	の
具	カ	果	ター	に	は	た	を	で	に	め	尺	は	い	一		の	野	の	弓
合	ー	た	カ	所	弓	鉄	あ	でき	あ	の	3	5	る	見		裏	の	に	「
も	ブ	し	レ	属	を	に	し	た	っ	弓	寸	尺	。	え		に	梓	比	は
何	ボ	て	ッ	し	引	見	ら	漆	た	だ	(	4		る		植	川	べ	表
故	ウ	き	ジ	て	い	え	っ	細	た	。	2	寸		い		え	で	遥	面
か	と	腕	で	いた	て	。	て	工	矢		1	(		る		て	採	か	を
沙	和	前	も	。	み		い	の	入		9	1		真		ら	れ	に	竹
耶	弓	で	数		た		た	美	れ		c	6		竹		た	貫	で	
に	と	ある	々		青		、	し	の		m	2		を		真	通	打	
ピ	では	、	の		山		鏃	い	矢		)	c		表		弓	能	っ	
ッ	勝	ア	大		学		(	矢	は		に	m		面		の	力	た	
タ	手が	ー	会		院		や	だ	十		比	と		に		木	に	合	
リ	が	チ	でも		大		じ	、	本		べ	通		は		を	優	成	
と	違	ェ	個人		学		り	矢	し		る	常		経		内	れ	の	
あ	う	リ	も		時		)	羽	か		と	の		文		側	て	弓	
っ	が	ー	個人		代		は	には	な		、	和		を		に	い	だ	
て	、		優		は		古	鷹	く		な	弓		刻		打	る	。	
い					洋		く		矢							っ	い		

ち	ら	手	助	鬼	最	戦	ら	平	将	翔	城	か	ち	そ	き	た	鏃	矢	た
抜	授	に	け	女	後	い	愛	朝	「	子	家	い	）	れ	た	そ	の	を	。
く	か	持	に	紅	の	を	し	臣	平	は	の	が	だ	が	、	先	つ		
力	っ	つ	と	葉	戦	待	く	維	い	正	一	い	と	平	緊	か	が		
を	た	武	追	と	い	つ	お	茂	強	義	人	し	言	朝	張	ら	ら		
持	「	器	う	戦	出	身	も	も	い	感	娘	く	う	臣	し	沙			
っ	破	は	翔	う	向	、	優	っ	に	の	、	世	の	維	話	耶			
て	邪	い	子	平	いた	た	し	た	強	強	を	を	が	茂	を	に			
い	の	ぎ	。	朝	た	、	か	、	く	い	す	沙	は	（	女	は			
た	弓	と		臣	平	し	し	そ	惹	、	る	耶	何	）	の	何			
。	」	言		維	朝	か	か	し	か	真	女	故	故	の	一	故			
	襲	う		茂	臣	朝	し	し	れ	っ	姿	判	判	行	行	判			
	い	時		を	維	の	か	て	て	直	が	っ	っ	が	が	っ			
	掛	に		慕	茂	勅	し	い	い	ぐ	見	た	た	見	見	っ			
	か	と		い	で	命	て	、	、	な	え	た	た	え	え	っ			
	妖	慈		少	あ	の	て	翔	翔	目	る	た	た	え	え	っ			
	魔	覚		し	っ	の	る	子	子	を	、	た	た	え	え	っ			
	を	大		で	た	勅	よ	を	を	し	結	た	た	え	え	っ			
	撃	師		も	っ	命	う	心	た	た	結	た	た	え	え	っ			
	か	か		手	。	の	に	か	。	武	結	た	た	え	え	っ			



何	「	や	て	そ	紅	愛	た	の	や	ジ	弓	に	ど	通	黴	同	ー	そ	て
を	こ	今	て	の	葉	す	。	姿	っ	色	を	ぼ	ま	る	臭	時	ド	の	大
探	れ	や	蔵	時	を	る		を	と	の	引	う	ま	声	い	に	瞬	声	
し	は	宿	に	だ	倒	者		真	、	オ	いた	と	で	で	書	間	で	泣	
て	、	敵	入	、	そ	た		っ	や	ー	た	燃	鏝	「	物	、	蒼	き	
い	こ	紅	っ	ハ	う	ち		直	っ	ラ	燃	え	（	と	倉	白	叫		
る	れ	葉	て	イ	と	上		ぐ	と	に	え	上	や	妖	の	い	ぶ		
の	は	の	き	ヒ	立	が		な	、	燃	上	が	じ	魔	奥	球	平		
か	は	配	た	ール	ち	時		目	巡	上	が	り	り	退	で	が	朝		
し	恵	下	女	の	が	空		で	り	っ	っ	逢	散	「	走	紅	臣		
ら	三	「	、	け	っ	を		見	え	た	た	え	」	と	り	葉	維		
」	さん	妖	そ	た	た	越		つ	た	愛	ま	た	咳	す	映	の	茂		
と	、	魔	れ	た	ま	え		め	た	す	し	ま	い	る	像	首	で		
聞	こ	楓	は	ま	し	再		て	愛	る	し	し	い	る	が	か	あ		
く	ん	」	有	し	い	び		い	ひ	と	か	し	い	る	一	ら	っ		
。	な	だ	希	い	音	出		る	と	、	オ	透	い	と	気	ら	た		
	と	っ	の	を	を	会		川	先	そ	レ	き	ス	。	に	凄	。		
	こ	た	母	立	宿	い		島	ほ	そ	ン	ピ	ビ		消	い			
	ろ	っ	、	立	敵	い		だ	ほ	そ	ン	ピ	ビ		え	ス			
	で	た	い	立		い		っ	ほ	そ	ン	ピ	ビ		た	ピ			

立	か	走	た	が	よ	と	ヤ	き	シ	の	荒	変	体	っ	て	び	「	う	川
て	ら	り	、	楓	う	な	マ	出	ユ	怨	倉	わ	温	す	ら	黒	ぎ	と	島
て	滴	な	も	は	に	っ	カ	し	ル	念	山	り	を	ら	光	ゃ	黄	は	
溶	り	が	ん	動	縮	た	ガ	し	シ	に	に	話	感	と	り	っ	色	何	
け	落	ら	ど	き	め	た	シ	の	ユ	呼	棲	す	じ	も	す	と	い	も	
て	ち	食	り	が	て	た	の	毒	ル	応	む	こ	な	出	半	後	炎	言	
ゆ	る	い	う	早	飛	た	毒	は	と	す	毒	と	い	来	蛇	ず	が	わ	
く	毒	殺	っ	い	び	た	は	凄	長	る	蛇	も	る	な	の	さ	ず	ず	
、	液	す	て	、	か	た	強	ま	い	よ	ヤ	出	る	い	姿	り	し	「	
川	床	快	倒	尻	か	た	烈	じ	に	う	マ	来	金	。	に	し	楓	降	
島	板	感	れ	尾	か	た	で	い	妖	に	カ	い	色		変	て	は	魔	
の	が	を	川	で	る	た	あ	い	魔	な	ガ	よ	の		わ	川	は	の	
身	シ	夢	島	川	、	た	る	、	に	っ	シ	う	目		っ	島	剣	を	
体	ユ	見	に	島	川	た	あ	ま	妖	た	が	だ	、		た	を	を	抜	
を	ー	な	飛	を	島	た	あ	し	魔	の	老	だ			を	を	抜	いた	
巻	っ	が	び	強	は	た	あ	て	に	だ	成	だ			を	を	抜	いた	
き	と	ら	掛	烈	右	た	あ	は	な	だ	し	だ			を	を	抜	いた	
つ	音	、	る	に	に	た	あ	は	っ	だ	て	だ			を	を	抜	いた	
け	を	毒	楓	撥	飛	た	あ	は	た	だ	毒	だ			を	を	抜	いた	
て		牙	楓	ね	んだ	た	あ	は	た	だ	の	だ			を	を	抜	いた	

荒倉山は連山である幾つかの山の集合体の名	荒倉山へと向かう。	毒蛇妖魔「楓」を倒した沙耶と川島は一路、	はじめた。	怨念をエネルギーとする妖魔は激しい活動を	魔界と化し外界と一気に遮断された	蔵の外では暗雲が立ち込め、別所温泉一帯が	した。	楓は一気に蒼白く燃え上がり灰となって霧散	から床板まで切り裂いた。	悲鳴を上げる楓の頭を飛び上がった川島が上	ついた楓の胴体を下から上に一気に切り裂く	に持った「降魔の剣」を逆手に持って、巻き	貫いた、断末魔の叫びを上げる楓。川島は手	光る楓の両目を左から右にオレンジ色の矢が	った声「妖魔退散」と聞こえた瞬間、金色に	ーンと聞こえた、その音に混じって、透き通	その時だった、蔵の奥から金属の鳴く音がキ	る。	上から覗く楓、笑っているような音が聞こえ
----------------------	-----------	----------------------	-------	----------------------	------------------	----------------------	-----	----------------------	--------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----	----------------------

く	で	が	か	っ	別	る	で	m	の	沙	駆	昨	と	あ	昼	を	北	山	前
れ	も	ら	う	て	所	こ	着	ナ	砂	耶	け	日	わ	る	間	を	の	に	だ
た	あ	あ	、	走	温	と	く	ビ	鉢	と	る	川	り	、	だ	巻	空	あ	紅
よ	の	ひ	助	り	泉	に	予	に	山	川	。	島	付	、	と	き	に	あ	葉
う	禍	いた	手	、	か	な	定	よ	中	島		が	く	、	言	、	は	る	が
な	々	た	席	鼠	ら	。	だ	る	腹	が		用	、	、	う	ど		い	い
も	し	一	の	橋	1		、	と	、	い		意	完	、	の	す		る	る
の	い	あ	沙	を	4		麓	、	紅	る		し	全	、	に	黒		。	岩
、	鬼	な	耶	渡	3		ま	、	葉	別		て	武	、	、	い		戸	は
平	が	に	は	り	号		で	お	の	所		いた	装	で	ま	空		標	高
和	復	逢	左	、	を		車	よ	岩	温		ラ	で	機	る	を		高	1
な	活	え	手	国	新		で	そ	戸	泉		ン	材	積	で	切		1	4
世	し	て	に	道	幹		行	1	ま	か		ド	み	込	り	り		3	0
界	た	心	千	1	線		き	時	で	ら		ク	込	む	い	裂		m	の
で	か	か	曲	8	上		後	間	お	ら		ル	込	二	い	い		の	砂
は	ら	ら	川	号	田		は	3	よ	い		ー	込	人	て	。		砂	鉢
会	逢	嬉	を	を	駅		徒	0	そ	。		ザ	込	、	い			。	鉢
う	わ	し	眺	北	に		歩	分	6			ー	込	、	。				。
こ	せ	い	め	に	向		で	ぐ	4			で	込	、					
と	て	、	な	向	か		登	ら	k			。	込	、					

い	決	母	都	大	を	そ	伝	病	父	の	歩	か	2	沙	川	映	助	も	す
つ	し	は	を	き	、	し	言	院	か	脳	道	り	度	耶	島	っ	手	う	ら
か	て	賢	離	な	知	て	を	に	ら	裏	を	に	と	の	は	っ	席	こ	叶
、	甘	く	れ	ト	っ	、	頼	に	一	に	歩	川	沙	手	シ	て	の	の	わ
お	や	強	た	ラ	て	そ	ま	連	見	は	を	島	耶	を	フ	い	ガ	世	な
前	か	い	の	ン	い	の	れ	れ	か	は	手	を	離	痛	ト	ラ	ラ	に	か
は	さ	女	だ	ク	た	夜	た	て	け	小	が	さ	い	い	レ	ス	越	居	っ
命	さ	性	っ	を	か	、	の	行	な	学	震	ほ	ど	に	バ	し	な	た	た
を	ず	だ	た	持	け	父	を	っ	い	生	え	ど	握	り	ー	千	い	の	の
か	厳	っ	っ	ち	て	が	を	て	女	代	て	に	締	め	か	曲	感	す	す
け	しく	た	。	出	来	2	思	か	の	の	い	め	た		ら	川	じ	ね	、
、	育	、		し	い	度	い	ら	子	事	た				左	に	て	、	そ
世	て	一		、	に	と	し	と	が	件	ち				手	悲	い	し	し
の	。	人		母	、	帰	て	電	怪	が	を				を	し	ま	み	の
人		息		は	母	っ	い	話	我	蘇	を				外	み	す	の	表
を		子		押	は	て	た	で	を	っ	し				し	の	。	情	情
守		の		入	は	来	。	母	し	て	い				無	表	と	が	が
る		川		れ	は	ない		に	て	い	る				言	情	と	と	は
生		島		か	は	の			い	た	、				で				は
		を		ら	は	の			る	。	川								、

を	記	い	前	皆	思	沙	頭	が	遠	ら	ば	何	靄	思	ま	ぐ	し	に	き
左	憶	た	方	無	い	耶	の	無	い	流	あ	を	が	え	っ	に	か	と	方
折	の	。	の	だ	起	に	中	か	世	さ	れ	見	か	ば	た	原	し	呪	を
し	部		大	っ	こ	出	の	っ	界	な	ほ	て	か	あ	。	因	、	文	を
て	屋		型	た	せ	会	霧	た	の	か	ど	も	っ	。	不	そ	の	を	す
4	か		ダ	の	ば	っ	が	の	出	っ	大	心	。		明	ん	よ	、	決
0	ら		ン	だ	、	っ	消	だ	来	。	事	を	い		の	な	う	。	し
6	出		プ	。	そ	。	え	。	事		に	動	た		病	母	に	。	て
号	た		が		れ	だ	去		の		し	か	。	気	も	言	。	油	
線	川		左		ま	っ	っ		よ		て	す		で	有	わ	。	断	
を	島		に		で	。	た		う		い	。		、	希	れ	。	す	
西	は		ウ		有		の		に		た			と	と	て	。	る	
に	信		ィ		希		は		感		母			結	結	。	。	こ	
向	州		ン		と		入		じ		親			婚	婚	。	。	の	
か	大		カ		言		院		て		の			し	し	。	。	無	
い	学		ー		い		先		全		死			て	て	。	。	い	
裾	の		を		争		の		く		に			。	。	。	。	よ	
花	三		出		う		病		く		も							う	
川	又		し		事		室		な		涙							。	
に	路		て		等		で		っ		す							。	



右	真	さ	「	王	妖	手	何	の	王	悪	ま	劍	の	沙	驚	で	驚	た	空
足	下	え	う	は	魔	首	事	劍	、	態	う	「	足	耶	王	川	王	。	か
の	に	た	ぎ	其	は	か	か	」	ニ	を	。	は	元	を	島	は	。	ら	
甲	に	右	ゃ	れ	触	ら	と	を	ヤ	見		浅	を	を	を	沙	。	出	
に	抜	手	！	す	れ	先	呆	る	リ	が		黄	投	捨	睨	驚	現		
深	け	が	」	ら	る	が	気	ポ	と	ポ		色	げ	て	み	し	た		
々	な	緩	と	も	こ	ト	に	ト	笑	リ		の	た	は	付	の	は		
と	が	ん	突	知	と	っ	取	り	い	ら		光	、	け	。	は	四		
突	ら	だ	き	ら	す	て	ら	と	左	「		無	な	。	天	天			
刺	、	、	刺	な	ら	し	る	足	手	降		く	す		王	王			
した	矢	その	した	か	叶	ま	驚	元	に	魔		な	術		の	の			
。	を	瞬間	。	っ	わ	っ	王	に	持	の		す	も		一	一			
鳥	右	、	鳥	た	ぬ	た	、	落	っ	「		な	なく		人	人			
の	手	緩	の	の	「	の	見	ち	た	降		す	驚		、	、			
叫	で	んだ	叫	だ	降	だ	ると	ま	は	魔		驚	王		驚	驚			
び	持	腕	び	だ	魔	だ	と	っ	ず	の		王	だ		王	王			
声	ち	の	声	腕	の	だ	左	た	の	「		だ	っ		だ	だ			
の	驚	の	の	腕	「	。	手	。	降	降		っ	っ		っ	っ			
	王			の	」		の		魔	魔									
	の			だ	驚		の		。	。									

で	熊	あ	る	人	前	け	驚	し	川	ま	と	人	悲	一	川	王	竹	足	よ
持	武	る	、	の	方	、	王	て	島	ず	落	間	鳴	閃	島	の	や	を	う
っ	は	、	藪	声	か	ブ	と	恐	、	は	ち	の	を	に	は	動	ぶ	貫	な
て	柄	四	から	と	ら	ナ	の	ろ	残	、	て	形	上	な	飛	の	いた	悲	鳴
い	の	天	出	も	ま	や	戦	し	る	、	風	げ	暇	ぎ	び	張	た	鳴	が
る	長	王	て	熊	じ	ナ	い	い	は	四	に	も	も	払	込	り	矢	山	に
。	い	の	き	の	い	ラ	勝	い	鬼	天	消	無	無	っ	み	め	は	に	こ
真	斧	一	た	う	殺	が	つ	鬼	女	王	え	く	、	た	な	ぐ	、	こ	だ
っ	を	人	の	な	気	生	た	紅	紅	の	。	、	蒼	。	が	ら	さ	だ	ま
赤	身	「	は	声	を	い	沙	葉	武	一	。	白	い	。	「	れ	れ	ま	し
に	体	熊	身	に	感	茂	耶	。	、	人	。	炎	に	。	降	た	た	し	た
燃	の	武	の	も	じ	る	と		熊	驚		包			魔	根	根	。	
え	前	だ	丈	似	立	山	川		武	王		ま			の	に	に		
る	で	っ	2	た	ち	道	島		、	を		れ			剣	食	燃		
目	横	た	メ	音	止	を	は		伊	倒		。			「	い	え		
で	に	っ	ー	が	ま	歩	竹		賀	し					拾	込	上		
川	し	。	ト	聞	っ	い	林		瀬	た					い	み	が		
島	て		ル	こ	た	て	を		の	沙					、	、	り		
を	両		は	え	、	い	抜		3	耶					横	驚	、		
射	手								人	と									

「	妖	魔	退	散	」	と	同	時	に	オ	レ	ン	ジ	の	光	が	一	閃	し
	の	あ	る	声	が	聞	こ	え	た										
	打	つ	音	が	聞	こ	え	た	、	熊	武	が	見	上	げ	る	、	透	明
	椎	の	木	の	上	の	ほ	う	か	ら	キ	ー	ン	っ	と	短	い	金	属
	り	と	え	ぐ	る	。													
	勢	い	余	っ	た	斧	は	椎	の	木	を	3	分	の	1	ほ	ど	サ	ツ
	ギ	リ	で	見	切	り	、	ひ	ら	り	と	か	わ	す	。				
	首	を	狙	っ	て	熊	武	は	斧	を	振	り	回	す	、	川	島	は	ギ
	は	木	を	背	中	に	た	っ	た	。									
	沙	耶	を	大	き	な	椎	の	木	の	後	ろ	に	隠	れ	さ	せ	て	川
	て	き	た	。															
	斧	を	振	り	回	し	骨	ま	で	粉	碎	す	る	勢	い	で	切	り	つ
	し	て	き	た	。														
	地	を	揺	る	が	す	よ	う	に	両	足	で	大	地	を	蹴	っ	て	突
	が	身	体	を	身	震	い	さ	せ	て	咆	哮	し	た	。				
	光	っ	て	伸	び	る	、	一	瞬	怯	む	気	配	を	見	せ	る	熊	
	降	魔	の	剣	を	抜	く	川	島	、	浅	黄	色	の	刀	身	が	ぼ	う
	左	か	ら	今	に	も	飛	び	か	か	ろ	う	と	す	る	熊	武	。	
	沙	耶	を	右	手	で	庇	い	な	が	ら	右	回	り	に	動	く	川	島
	殺	す	ほ	ど	の	殺	気	を	帯	び	て	い	た	。					



え	て	い	る	野	原	だ	っ	た	、	沙	耶	の	姿	は	隠	れ	て	見	え	な	い	。	川	島	は	沙	耶	の	声	の	す	る	ほう	に	走	る	。	そ	れ	を	追	っ	て	熊	武	が	追	う	、	見	た	目	の	鈍	重	さ	に	比	べ	て	非	常	に	素	早	い	熊	武	だ	っ	た	。	身	の	丈	以	上	も	あ	る	ス	ス	キ	が	視	界	を	遮	る	、	目	の	前	で	沙	耶	の	透	き	通	っ	た	声	が	聞	こ	え	た	「	妖	魔	退	散	」	川	島	の	背	中	か	ら	覆	い	か	ぶ	さ	る	よ	う	に	襲	っ	て	く	る	半	獣	の	熊	武	、	川	島	は	何	故	か	腕	を	横	に	広	げ	て	前	に	倒	れ	た	、	ス	ス	キ	が	な	ぎ	倒	さ	れ	て	見	え	た	の	は	、	弓	を	い	っ	ぱ	い	に	引	い	て	い	る	沙	耶	。	短	い	発	射	音	が	聞	こ	え	た	、	弓	を	横	に	寝	か	し	て	二	本	の	破	魔	矢	が	熊	武	の	両	の	目	に	飛	ん	で	き	た	。	さ	す	が	に	至	近	距	離	の	矢	は	避	け	ら	れ	な	い	、	熊	武	が	こ	の	世	で	最	後	に	見	た	の	は	オ	レ	ン	ジ	に	輝	く	鏃	の	先	端	だ	っ	た	。	両	目	を	貫	通	し	た	破	魔	矢	は	脳	ま	で	達	し	て	い	た	、	運	動	神	経	を	つ	か	さ	ど	る	脳	髓	ま	で	損	傷	し	て	い	る	よ	う	だ	、	麻	痺	す	る	手	足	が	妙	な	動	き	を	す	る	。
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

ス	た	倒	た	大	へ	熊	し	残	く	凜	紅	い	半	急	灰	蒼	た	袈	川
ピ	黒	木	時	き	と	武	き	る	、	と	葉	だ	獸	に	が	白	。	裟	島
ー	い	と	、	な	の	と	鬼	は	父	し	四	。	熊	強	ド	い	が	が	は
ド	影	岩	妙	な	戦	の	女	伊	と	た	天		武	い	ス	炎	け	勢	
で	が	の	な	岩	い	の	紅	賀	母	沙	王	二	の	風	ン	が	に	い	
迫	地	間	悪	が	を	無	葉	瀬	の	耶	人	目	灰	が	と	激	浅	余	
っ	面	から	寒	せ	征	念	。	と	の	の		天	を	音	し	黄	っ		
て	を	視	に	り	した	さを		リ	美	空	空	空	を	を	く	色	て		
く	走	線	襲	出	二	を		ー	し	へ	熊	一	立	あ	の	で			
る	っ	を	わ	し	人	晴		ダ	い	と	武	気	て	が	光	バ			
。	て	感	れ	て	は	らす		グ	横	一	の	に	倒	り	で				
	く	じ	た	る	急	覚		格	顔	に	最	崩	木	熊	ッ				
	る	る		道	な	悟		の	に	は	後	上	の	の	サ				
	、	、		に	坂	が		鬼	安	安	だ	に	形	を	リ				
	音	ス		、	道	見		武	堵	堵	っ	に	を	した	と				
	も	ツ		差	を	え		そ	の	の	た	崩	大	た	切				
	無	と		し	岩	た		し	色	色	。	れ	量	り	り				
	く	抜		掛	屋	。		て	も	も		た	の	裂	裂				
	凄	け		か				恐	無	無		た	の	い	い				
	い			っ				ろ											

プ	頂	来	ん	沙	沙	川	で	あ	紅	ま	切	右	だ	川	が	黒	と	る	音
し	上	る	な	耶	耶	島	は	っ	葉	た	っ	脇	、	島	ら	い	光	、	を
た	か	よ	素	は	を	を	な	た	四	影	た	を	川	島	、	影	る	、	消
。	ら	う	材	岩	目	襲	い	っ	天	に	と	一	島	の	は	短	、	し	し
	川	だ	に	山	指	っ	が	、	王	な	思	閃	は	の	い	刀	前	た	た
	島	。	も	に	し	た	、	妖	の	っ	っ	。	左	前	が	が	まで	来	レ
	の	追	関	向	て	後	術	魔	一	地	瞬		に	ま	見	来	た	時	ビ
	居	い	係	か	地	、	を	と	人	面	間		立	で	え	時	、	の	の
	る	か	なく	っ	面	す	使	な	、	に			体	来	た	地	地	映	の
	方	け	影	て	を	ぐ	え	っ	伊	消	手		化	た	面	面	像	映	の
	向	る	の	は	走	に	る	か	賀	え	ご		し	枯	か	か	を	を	の
	向	方	ま	し	っ	方	よ	っ	瀬	た	た		て	葉	っ	か	見	見	の
	か	向	ま	、	て	向	う	っ	の	え	え		枯	を	き	っ	て	て	の
	っ	っ	で	伊	ゆ	を	な	っ	不	も	も		散	撒	散	っ	い	い	の
	、	、	走	賀	く	変	っ	か	思	無	ス		ら	き	ら	っ	る	る	の
	ジ	沙	る	瀬	。	え	っ	ら	議	ッ	と		し	散	ら	っ	感	感	の
	ャ	耶	事	、		今	っ	紅	な				な	ら	し	っ	覚	覚	の
	ン	は	が	伊		度	っ	葉	能					な	し	っ	が	が	の
		岩	出	賀		は	っ	ほ	力						な	っ	蘇	蘇	の
		の		瀬		は	っ	ど	で										

で	に	炎	時	る	沙	さ	の	ら	ら	沙	に	影	た	伊	き	な	沙	沙	同
貫	激	が	、	「	耶	り	劍	れ	伊	耶	襲	は	影	賀	通	が	耶	耶	じ
通	痛	徐	伊	妖	が	劍	を	「	賀	は	い	矢	と	瀨	つ	ら	を	よ	
し	を	々	賀	魔	胸	を	持	う	瀨	は	掛	な	なり	を	た	弓	襲	う	
て	感	に	瀨	退	の	沙	っ	っ	が	身	か	破	貫	を	声	を	っ	に	
胃	じ	大	は	散	前	耶	て	と	襲	体	わ	魔	い	短	引	翻	て	ジ	
に	た	き	見	・	で	に	走	声	い	中	し	矢	思	い	いた	して	き	ャン	
到	、	く	た	・	指	突	る	を	掛	か	後	は	っ	た	、	地	た	プ	
達	首	光	、	我	を	き	、	上	か	る	、	影	た	瞬	面	向	し	した	
し	か	る	沙	こ	組	立	伊	げ	背	中	す	を	間	、	に	か	た	黒	
て	ら	の	耶	こ	み	て	賀	る	を	地	ぐ	突	、	伊	向	っ	た	い	
い	入	を	の	こ	、	よ	瀨	沙	面	面	に	き	賀	瀨	っ	て	影	影	
、	っ	賀	瞳	こ	小	う	が	耶	に	に	立	抜	は	、	背	は	は	立	
悲	た	瀨	に	こ	さ	と	沙	に	覆	体	化	け	ま	、	を	透	立	体	
鳴	、	は	オ	こ	な	した	に	い	い	し	して	た	ま	む	む	け	体	化	
を	上	首	レン	こ	声	時	に	か	か	沙	て	。	ま	け	け	て	化	し	
上	げ	から	ジ	こ	で	だ	覆	川	島	耶	ゆ	。	ま	け	け	て	し	て	
げ	な	背	色	こ	吐	っ	い	が	降	。	く	。	ま	け	け	て	し	て	
な		中	の	の	い	た	か	魔	魔	。	、	。	ま	け	け	て	し	て	

鬼	残	ビ	た	い	二	い	そ	腕	左	川	る	突	立	伊	飛	戻	を	天	が
女	る	リ	、	る	人	オ	の	で	の	島	。	風	て	賀	ん	っ	持	空	ら
紅	は	と	も	岩	は	ー	指	引	指	は		が	灰	瀬	で	っ	っ	に	立
葉	四	し	う	屋	ひ	ラ	を	き	を	右		吹	と	の	き	っ	っ	向	ち
の	天	た	少	に	と	に	時	寄	絡	の		き	な	首	た	っ	っ	か	上
二	王	空	し	む	時	砂	間	せ	め	指		、	崩	が	川	っ	っ	っ	が
人	リ	気	で	か	見	鉢	だ	キ	て	で		れ	。	落	島	っ	っ	っ	る
だ	ー	感	紅	っ	詰	山	け	ス	引	、		た		ち	が	っ	っ	っ	伊
け	ダ	は	葉	て	め	が	、	を	き	時		た		な	伊	っ	っ	っ	賀
だ	ー	激	の	凜	合	包	時	し	起	空		っ		が	賀	っ	っ	っ	瀬
っ	格	し	い	と	っ	ま	を	こ	こ	を		た		ら	瀬	っ	っ	っ	。
。	の	さ	る	し	た	れ	た	し	し	越		灰		蒼	の	っ	っ	っ	
	鬼	を	岩	た	後	。	恋	、	、	え		を		い	首	っ	っ	っ	
	武	増	屋	鋭	、		人	同	勇	た		一		っ	を	っ	っ	っ	
	、	し	で	い	同		士	士	敢	恋		気		上	一	っ	っ	っ	
	そ	て	あ	視	時		の	の	な	人		に		げ	気	っ	っ	っ	
	し	い	る	線	に		暖	の	恋	を		消		て	に	っ	っ	っ	
	て	。	、	を	紅		か	の	人	左		し		音	刎	っ	っ	っ	
	宿		ビ	送	葉				を	の		去		を	ね	っ	っ	っ	
	敵		リ	っ	の				左					を	た	っ	っ	っ	

星	川	ブ	沙	れ	造	入	耶	少	そ	半	り	驚	り	し	女	そ	え	ま	朝
の	島	の	耶	て	ら	っ	の	し	し	獣	凄	王	し	く	紅	の	ら	で	廷
ア	が	白	は	い	れ	た	背	視	て	と	ま	は	は	は	葉	將	れ	恐	か
ザ	T	の	コ	る	た	。°	中	界	残	し	ま	鳥	無	無	に	門	ら	れ	ら
の	シ	T	ン	、	年		や	が	る	て	じ	の	い	仕	の	れ	ら	れ	逆
右	ヤ	シ	バ	こ	代		肩	開	リ	破	い	よ	鬼	え	従	ら	れ	る	賊
上	ツ	ヤ	ツ	こ	す		の	け	ー	壊	速	う	武	て	属	あ	ほ	ど	の
の	を	な	ス	は	ら		打	た	グ	の	度	に	、	魔	で	っ	ど	の	魔
肩	め	っ	ト	何	判		撲	所	ー	化	地	空	、	力	た	武	力	を	
左	く	た	ス	故	ら		を	に	格	で	を	を	熊	持	將	た	持	っ	
下	り	°	ツ	か	な		手	古	の	あ	走	飛	武	っ	ち	の	っ	て	
の	背		を	外	い		当	び	鬼	っ	り	び	、	し	末	裔	い	た	
わ	中		脱	に	千		て	た	武	た	、	、	驚	も	が	鬼	と	伝	
き	を		ぎ	比	手		す	寺	の	は	熊	、	王	、					
腹	見		、	べ	観		る	が	能	は	と	伊	、	伊					
が	た		ノ	て	音		た	あ	力	人	人	賀	賀	瀬					
青	、		ス	暖	像		め	っ	と	の	の	瀬	瀬	の					
黒	北		リ	かい	が		に	た	は	？	影	は	蘇						
い	斗		ー		置		中	、			と	な							
ア	七				か		に	沙			の								

そ	間	力	長	を	沙	し	覚	唇	げ	が	最	乳	き	固	ア	薬	リ	か	ザ
の	が	を	い	を	耶	な	、	が	て	川	後	房	し	定	バ	劑	ユ	な	に
時	止	持	時	覚	は	い	は	接	て	島	の	の	め	用	ラ	の	り	な	な
だ	ま	っ	を	え	は	灼	じ	触	沙	の	バ	上	る	の	骨	冷	ツ	な	な
っ	ま	っ	を	た	じ	熱	め	し	耶	指	ン	ま	よ	バ	に	た	ク	腫	っ
た	っ	っ	隔	た	め	の	て	た	が	に	テ	で	う	ン	は	き	か	れ	っ
急	た	っ	て	た	て	熱	て	所	川	絡	ー	に	に	デ	損	に	ら	て	っ
に	た	っ	て	た	て	さ	キ	か	島	ん	ジ	下	下	ー	傷	沙	湿	い	っ
古	た	っ	巡	た	巡	に	ス	ら	の	で	を	腹	部	ジ	は	耶	布	る	っ
寺	に	っ	り	だ	り	魂	を	白	唇	き	巻	部	か	を	無	が	を	と	っ
の	感	っ	あ	、	が	が	し	い	を	終	く	ら	形	巻	い	ピ	だ	、	っ
破	じ	っ	っ	魂	溶	合	時	光	求	わ	川	の	の	く	よ	ク	酷	っ	っ
れ	る	っ	た	の	け	う	と	に	め	る	島	良	大	う	う	ン	く	っ	っ
障	。	っ	魂	熱	合	、	同	溶	た	と	、	い	き	だ	だ	と	痛	っ	っ
子	。	っ	は	い	う	そ	じ	け	時	き	後	大	め	が	が	む	っ	っ	っ
が	。	っ	身	抱	う	う	熱	る	と	ろ	ろ	き	の	念	患	よ	っ	っ	っ
激	。	っ	体	擁	、	そ	さ	よ	き	向	向	し	の	の	部	う	っ	っ	っ
し	。	っ	を	が	う	う	だ	う	に	き	き	沙	た	た	に	だ	っ	っ	っ
い	。	っ	も	続	、	そ	火	な	顎	に	耶	の	め	め	当	っ	っ	っ	っ
音	。	っ	癒	く	し	う	傷	感	を	あ	の	指	の	に	て	。	っ	っ	っ
			す	時	て	し				あ				抱	に		っ	っ	っ

ん	い	で	沙	小	川	る	中	激	石	古	ガ	凄	上	を	黒	ち	覗	後	と
で	発	破	耶	石	島	の	に	し	が	い	ン	い	げ	中	い	よ	き	ろ	と
ゆ	射	魔	は	が	が	か	浮	い	飛	観	の	速	な	心	靄	う	見	に	も
く	音	矢	右	川	観	わ	いた	音	ん	音	の	度	が	に	から	ど	る	隠	に
！	が	を	に	島	音	か	た	を	で	を	後	で	ら	激	白	能	と	れ	吹
	し	放	飛	を	像	ら	白	立	く	ろ	る	飛	二	し	般	舞	前	る	き
	た	った	んで	狙	か	な	般	て	。	に	ん	人	人	い	若	台	方	。	飛
	破	！	で	っ	い	。	若	て		隠	で	襲	襲	て	の	に		ん	だ
	魔	金属	白	床	。		は	て		れ	く	い	掛	、	面	般		、	、
	矢	音・	般	に			見	て		る	小	か	か	庭	が	若	鼓		二
	は	透	若	幾			え	観		人	石	る	る	の	出	が	の	人	は
	一	き	に	つ			る	音		に	は	る	。	小	て	音	音	は	急
	直	通	向	も			が	像		容	ま	で	庭	石	く	が	聞	い	い
	線	る	か	の			鬼	が		赦	る	シ	の	を	る	聞	こ	で	観
	に	声	っ	穴			武	ど		な	で	ョ	庭	巻	、	こ	え	観	音
	飛	短	破	を			が	こ		く	ツ	の	き	こ	そ	え	る	音	像
			邪	穿			ど	に		、	ト	を	こ	こ	こ	、		の	の
			の	っ			こ	居		空									
			弓	た			に												

て	金	る	る	く	す	沙	る	ま	そ	方	が	左	観	小	に	る	沙	に	し
沙	属	の	宝	だ	方	耶		で	れ	か	し	に	音	石	な	、	耶	バ	か
耶	製	が	戟	さ	法	は		粉	を	ら	、	飛	像	は	り	を	ラ	し	
の	の	見	(	い	を	千		砕	追	攻	床	び	を	狙	、	を	バ	矢	
前	そ	え	ほ	と	教	手		し	っ	撃	下	出	激	っ	危	粉	バ	は	
に	れ	た	う	、	え	観		し	つ	し	か	し	し	て	う	砕	ラ	無	
落	は		げ	す	て	音		よ	て	し	ら	く	く	い	骨	さ	に	数	
ち	沙		き	る	く	像		う	小	よ	前	頭	く	ス	に	れ	小	の	
て	耶		)	と	だ	に		と	石	う	庭	蓋	頭	ピ	に	て	石	の	
き	が		が	観	さ	必		と	が	走	を	骨	蓋	ー	し	し	に	無	
た	見		オ	音	い	死		走	飛	っ	迂	に	骨	ド	ま	ま	削	数	
沙	る		レ	像	、	に		た	ぶ	た	回	飛	穴	で	っ	ら	れ	の	
耶	と		ン	が	愛	祈		っ	、	弱	し	込	を	小	っ	、	削	小	
は	同		ジ	左	す	っ		た	庭	っ	て	ん	穿	石	っ	、	ら	石	
思	時		色	手	る	、		、	の	た	い	だ	ち	が	っ	面	に	に	
い	に		に	に	人	鬼		、	木	た	っ		な	飛	っ	届	届	前	
つ	音		光	持	を	武		、	々	た	っ		が	ん	く	く	前	前	
い	を		っ	っ	お	を		、	や	床	っ		飛	で	く	く	前	前	
た	立		て	て	守	倒		、	石	板	っ		ん	く	く	く	前	前	
よ	て		い	い	り			、	燈	を	っ		だ	そ	く	く	前	前	
			い	い				、	籠	剥	っ			う	く	く	前	前	

恐	般	が	凄	寺	散	い	全	川	く	も	く	鈍	う	沙	く	石	音	鳴	う
ろ	若	激	い	に	の	つ	速	島	天	の	つ	い	げ	耶	る	の	像	り	に
し	面	しく	ス	響	透	も	力	へ	使	の	も	音	き	を	が	の	の	が	、
い	の	く	ピ	いた	き	よ	で	の	の	階	の	を	）	包	、	つ	前	が	、
咆	眉	叩	ード	。	通	り	走	攻	の	段	を	穿	の	み	観	ぶ	に	立	、
哮	間	く	で		る	長	る	撃	を	を	つ	て	前	込	音	て	立	っ	、
を	に	が	飛		声	い	。	は	み	て	て	石	で	む	像	は	っ	た	。
上	刺	金	ぶ		、	金		緩	る	石	が	急	コ	、	か	見			
げ	さ	属	宝		短	属		ん	よ	床	床	に	ー	い	ら	つ			
て	っ	製	戦		鈍	音		で	う	板	と	コ	ス	っ	浅	け			
白	た	の	（		い	が		いた	だ	と	沙	を	を	ぱ	黄	て			
般	。	そ	ほ		発	鳴		白		沙	耶	変	変	い	色	容			
若		れ	う		射	、		般		の	の	え	え	引	の	赦			
面		は	げ		音	そ		若		横	横	る	る	いた	光	な			
が		ビ	き		が	し		に		の	の	。	。	た	が	く			
割		ク	）		ブ	て		向		壁	壁			宝	ド	飛			
れ		と	を		ン	か		か		に	に			戦	ー	ん			
た		も	を		と	っ		っ		い	い			（	ム	で			
、		せ	小		古	て		て		靦	靦			）	状				
黒		ず	石											ほ	に				

鬼	た	て	た	千	い	強	ダ	鬼	て	宝	え	下	蒼	魔	鼓	て	う	鼓	い
武	。	い	が	手	の	敵	ー	女	地	戦	た	す	い	の	の	い	げ	に	霞
で		る	、	観	無		格	紅	面	(	。	る	炎	剣	魔	た	き	は	の
す		は	そ	音	事	鬼	、	葉	に	ほ	前	は	で	力	魔	。	)	は	後
ら		ず	こ	に	を	武	鬼	の	落	う	に	鬼	消	が	魔		が	ろ	ら
二		の	に	感	喜	を	武	怨	下	げ	天	え	撃	沙	の	が	か	ら	鼓
人		宝	在	謝	ん	倒	に	念	し	き	空	落	ち	耶	の	擊	ら	鼓	を
だ		戦	っ	を	だ	した	妖	は	。	(	か	。	て	が	の	ち	こ	ん	だ
け		(	た	捧		二	術	鼓		み	ら	く	ん	千	手	観	音	の	宝
で		ほ	は	げ		人	の	に		が	の	る	だ	手	観	音	の	宝	戦
は		う	ず	よ		は	力	乗		ジ	突	る	千	手	観	の	宝	戦	(
勝		げ	の	う		肩	を	り		ャ	風	る	手	観	音	の	宝	戦	ほ
て		き	古	と		を	与	移		ラ	に	る	手	観	の	宝	戦	戦	ほ
な		)	寺	後		寄	え	り		ン	持	る	手	観	の	宝	戦	戦	ほ
い		も	は	ろ		せ	て	、		と	ち	る	手	観	の	宝	戦	戦	ほ
こ		消	消	を		合	い	配		音	去	る	手	観	の	宝	戦	戦	ほ
と		滅	え	振		い	た	下		を	ら	る	手	観	の	宝	戦	戦	ほ
を		し	、	り		お	よ	の		立	れ	る	手	観	の	宝	戦	戦	ほ
痛		て	落	返		互	う	リ		て	て	消	手	観	の	宝	戦	戦	ほ
感		い	ち	っ			だ	ー		て	消	え	手	観	の	宝	戦	戦	ほ

自	は	沙	る	幸	し	川	「	だ	そ	り	慌	て	が	木	何	鬼	で	二	し
分	紅	耶	時	枝	た	島	結	！	の	相	て	が	々	か	女	あ	人	な	
は	葉	が	に	は	と	は	城	なん	時	手	て	隠	の	動	紅	っ	は	が	
今	に	父	出	ひ	苦	劍		と	、	の	飛	れ	合	く	葉	た	は	ら	
日	全	親	来	ど	笑	を	幸	岩	沙	頭	び	て	間	気	が	は	宿	、	
に	身	の	た	く	し	収	枝	か	耶	上	出	い	に	配	隠	は	敵	神	
な	の	安	擦	怯	な	め	「	ら	が	か	し	る	を	を	れ	は	紅	仏	
っ	血	否	り	え	が	危	だ	逃	ら	り	て	大	を	感	住	葉	の	の	
て	を	を	傷	て	ら	う	っ	げ	に	か	来	岩	抜	じ	む	の	待	守	
急	抜	尋	が	い	謝	く	た	出	母	か	た	の	き	た	岩	つ	り	が	
に	か	ね	あ	た	っ	あ	の	し	親	か	、	魔	近	有	屋	岩	が	有	
四	れ	と	る	が	た	な	だ	た	の	っ	の	劍	い	る	ま	屋	こ	を	
天	死	涙	ぐ	、	。	を	だ	女	に	た	高	を	林	こ	で	へ	と	を	
王	ん	な	ら	怪		殺	っ	は	母	。	く	恐	中	う	と	と	歩	感	
が	だ	が	い	我		す	た	沙	親		れ	れ	で	側	歩	み	謝	し	
慌	い	ら	だ	も		と	た	耶	を		た	近	何	に	始	始	め	た	
て	う	に	っ	無		こ	。	の	呼		の	づ	者	何	め	め	た	の	
て	、	父	た	く		ろ		母	ん		か	い	か	者	た	の	の	を	
牢		親	。	逃		で		親			か		か	か	の	の	を	感	
に				げ														謝	
																		し	
																		た	

こ	川	い	い	沙	前	沙	る	す	こ	願	川	に	質	だ	葉	幸	今	り	鍵
こ	島	に	て	耶	に	耶	訳	る	こ	し	島	な	に	だ	退	枝	ど	、	も
で	は	は	、	は	は	は	に	。	こ	た	は	る	取	、	治	一	う	、	か
待	ビ	行	す	急	言	始	は	。	こ	。	沙	の	り	相	に	人	し	岩	け
つ	バ	か	ぐ	い	う	め	い	。	ま	。	耶	動	に	手	同	で	て	屋	ず
こ	ー	な	こ	で	こ	こ	か	。	で		に	き	は	は	下	い	。	か	、
と	グ	い	こ	下	こ	そ	な		来		目	を	は	あ	山	。	判	ら	出
を	用	よ	こ	山	を	反	い		た		に	封	の	の	さ	ら	な	れ	て
約	の	う	に	し	聞	対	と		ら		見	じ	を	を	せ	い	い	た	行
束	シ	に	戻	母	く	し	話		、		え	れ	望	望	ら	。	。	の	っ
す	ー	哀	る	親	し	か	。		自		て	ば	ん	だ	な	。	だ	た	た
る	ト	願	か	を	が	な			分		い	、	が	が	い	。	と	め	め
か	を	。	ら	安	川	か			ひ		。	、	幸	川	と	。	話	警	警
ら	広		決	全	島	つ			と		下	、	枝	島	紅	す	備	備	
送	げ		し	な	の	。			り		山	人	を	は	葉	。	が	が	が
っ	な		て	と	強				も		す	。	。	拒	。	。	。	。	。
て	が		一	こ	い				紅		る			ん					
き	ら		人	ろ	意				葉		よ			。					
な	ら		で	に	志				と		う								
さ	ら		は	置	の				対		に								
い	こ		戦	置					決		懇								

そ	黒	何	剣	照	を	岩	川	し	そ	こ	戦	鬼	よ	二	耶	沙	れ	沙	と
の	い	か	を	見	唱	屋	島	て	し	と	い	女	う	人	に	耶	の	の	と
中	雲	が	振	五	え	の	だ	も	て	に	は	紅	に	の	2	と	軽	は	伝
に	が	壊	っ	蘊	た	前	っ	、	て	な	飽	葉	鬼	姿	度	逢	い	名	え
赤	噴	れ	た	皆	一	に	た	鬼	沙	る	き	と	の	が	と	キ	残	た	。
い	出	る	。	空	観	立	。	女	耶	こ	る	の	宿	見	逢	ス	を	を	
鬼	し	音		・	自	ち		紅	と	と	こ	命	え	な	い	を	し	し	
の	て	が		・	在	降		葉	幸	も	も	を	な	い	よ	た	。	ん	
顔	き	し		・	菩	魔		を	せ	無	無	自	く	よ	う		で		
が	た	て		」	薩	の		討	に	将	く	分	来	な	な		川		
ぼ	。	、		そ		剣		ち	生	来	将	の	も	っ	予	島			
っ		岩		し	行	を		たい	き	何	来	代	何	て	感	は			
か		屋		て	深	抜		いと	る	世	何	で	世	、	が	決			
り		中		、	般	いた		神	望	紀	何	断	紀	川	し	心			
浮		か		渾	若	、		仏	み	も	世	ち	も	島	て	し			
い		ら		身	波	般若		に	と	続	何	切	続	は	い	た			
て		大		の	羅	心		願	引	く	世	ら	く	決	。				
い		量		力	蜜	経		っ	き	、	紀	ね	、	心					
る		の		で	多			た	換		も	ば	、	し					
、					時				え		続			た					
									に		く								

鬼	り	葉	距	う	紅	に	なん	っ	を	川	ん	鬼	何	大	思	地	岩	なる	気
の	と	の	離	槍	葉	弾	ん	た	持	島	で	武	本	き	え	獄	屋	る	持
顔	頭	顔	が	と	に	か	と	°	っ	は	く	の	も	く	る	の	か	°	ち
は	に	面	縮	盾	向	れ	銀		っ	右	る	石	の	開	程	の	ら		悪
切	落	に	ん	が	か	あ	色		て	手	°	つ	の	いた	の	は		い	
り	ち	渾	で	火	っ	っ	に		い	に		ぶ	が	鬼	臭	突		笑	
口	る	身	ゆ	花	て	け	輝		た	降		て	川	の	き	風		い	
か	降	の	く	を	飛	な	く		が	魔		よ	島	口	だ	に		声	
ら	魔	力	、	散	ぶ	く	盾		、	の		り	に	が	っ	乗		で	
眩	の	で	降	ら	川	落	に		そ	劍		遥	向	た	っ	っ		脳	
い	劍	振	魔	し	島	ち	変		の	左		か	っ	°				が	
光	°	り	の	な		°	わ		鞘	手		っ	て	思				共	
を		下	劍	が	激		っ		が	に		飛	っ	っ				振	
あ		ろ	を	ら	し		た		い	降		ん	た					し	
げ		し	大	川	な		の		き	魔		で	っ					て	
て		た	上	島	だ		だ		な	の		来	瞬					吐	
真		、	段	と	、		、		り	劍		た	間					き	
っ		ぎ	か	紅	槍		槍		眩	の		°						そ	
二		っ	ら	葉	は		は		し	鞘								う	
つ		く	紅	の	盾		盾		く	の								に	

沙	川	沙	山	な	だ	先	枯	中	ら	途	が	川	デ	い	そ	に	紅	紅	に
耶	島	耶	道	っ	っ	ほ	れ	を	く	中	奥	島	だ	な	れ	悪	葉	葉	割
は	が	の	を	た	ど	ど	果	見	こ	右	は	は	っ	い	は	寒	の	、	れ
幸	岩	命	走	の	だ	沙	て	て	れ	に	長	た	た	、	蒼	が	死	、	た
枝	屋	は	る	？	。	耶	た	川	が	折	い	洞	の	、	い	走	体	、	、
を	の	は	川	・		が	男	島	送	れ	洞	窟	だ	、	炎	る	ら	、	恐
連	大	？	島	・		っ	と	は	っ	た	に	な		で	の	し	き	ろ	し
れ	ム	・	、	・		て	女	愕	て	と	っ	っ		燃	を	き	な	し	い
て	カ	・	沙	・		い	の	然	い	こ	て			え	感	も	な	き	悲
山	デ	・	耶	・		っ	胸	と	た	ろ	い			て	じ	の	過	鳴	を
道	と	・	の	・		、	の	し	だ	に	い			い	た	に	ぎ	を	上
を	戦		後			あ	鼓	た	。	格	な			、	、	近	る	げ	な
降	っ		を			の	動	言	血	子	あ			灰		づ	紅	が	ら
り	て		追			う	が	う	を	が	っ			に		き	葉	ら	落
て	い		う			、	と	抜	抜	あ	た			も		、	の	が	ち
い	る		、			果	言	か	。	っ	入			な			最	ら	る
た	頃		た			た	う	れ		、	り			っ			後	ら	
、			し			紅	こ	か		お	口			て			だ	ら	
足			て			葉	と	れ		そ	は						っ	ら	
元			て				は				狭						た	ち	

言	あ	ま	間	声	え	郎	幸	眩	そ	は	「	く	る	痛	慌	た	急	ま	が
う	ん	っ	を	に	な	・	枝	い	の	・	違	助	よ	い	て	右	い	っ	お
か	た	た	歪	音	な	・	は	光	時	・	う	け	う	、	て	手	で	ぼ	
言	に	か	め	程	」	・	顔	が	、	・	！	て	な	、	幸	か	つ	つ	
わ	ね	か	る	が	と	も	を	岩	ド	・	違	お	子	、	枝	ら	か	か	
ない	！	ね	ほ	下	言	う	歪	屋	ー	・	う	く	に	、	を	肌	な	な	
か	」	、	ど	が	う	と	め	か	ン	・	！	れ	育	、	突	に	い	い	
で		私	の	っ	と	幸	な	ら	と	・	違	」	て	た	き	あ	い	幸	
紅		の	声	て	枝	枝	が	」	言	・	う		た	覚	放	わ	い	枝	
葉		大	だ	ゆ	の	の	甲	ち	う	・	！		え	え	す	立	い	は	
は		事	「	く	声	声	高	ま	大	・	お		は	あ	沙	つ	い	木	
真		な	お	、	が	が	い	っ	音	・	母		あ	り	耶	ほ	い	の	
っ		男	や	ま	が	ま	声	た	響	・	様		あ	り	、	ど	い	根	
赤		を	お	か	甲	っ	か	、	が	・	じ		あ	り	幸	の	い	っ	
な		盗	お	し	高	た	し	か	岩	・	や		ま	せ	枝	殺	こ	こ	
色		んだ	や	、	い	か	か	た	屋	・	な		ま	せ	の	気	に	に	
の		泥	、	ば	声	か	た	ね	で	・	い		せ	ん	を	感	躓	躓	
夜		棒	れ	て	ら	ら	ね		起	・	っ		ん	よ	じ	じ	い	い	
又		猫	し	し	低	い			こ	・	お		。早	す	い	た	て	し	
		の			い				り	・	前		。		、	た	っ	し	

音	紅	涼	矢	渾	る	減	沙	魔	ガ	激	く	の	大	つ	す	う	雷	で	面
を	葉	や	を	身	よ	を	耶	に	ン	し	る	よ	木	か	る	ち	鳴	九	と
立	の	か	つ	の	う	し	の	も	の	い	。	う	に	り	よ	紅	が	字	な
て	額	な	が	力	だ	な	の	当	の	白		な	に	り	う	轟	を	な	り
て	に	な	え	を	。	が	よ	た	の	い		な	に	な	か	き	切	ら	空
紅	向	声	た	振		ら	う	り	よ	肌		低	さ	な	れ	激	り	間	に
葉	か	、	、	絞		、	な	っ	な	が		級	れ	あ	し	く	な	に	浮
の	っ	短	金	っ		じ	小	破	小	赤		妖	沙	げ	く	風	が	に	い
眉	て	い	属	邪		わ	石	の	石	く		魔	耶	。	面	が	吹	呪	た
間	飛	発	音	の		と	が	弓	が	で		が	の		の	い	文	、	紅
に	ん	射	が	の		殺	木	を	木	ゆ		肌	足		波	て	を	唱	葉
命	で	音	響	の		し	の	削	の	く		を	首		に	く	唱	え	は
中	ゆ	。	く	の		を	肌	り	肌	、		舐	か		木	る	。	を	胸
し	く		、	の		楽	を	低	を	マ		め	れ		に	、		を	で
た	タ		透	持		し	削	級	削	シ		な	、		激	一		唱	組
。	ン		明	ち		ん	り	妖	り										

る	そ	る	岩	っ	ら	見	体	紅	て	殺	大	し	頭	沙	ら	ん	あ	い	「
ほ	こ	、	が	て	浮	る	の	葉	ま	さ	昔	て	が	耶	え	な	あ	に	ぎ
ど	ら	岩	凄	投	い	と	下	は	す	れ	、	涎	割	の	と	お	あ	変	や
の	に	と	ま	げ	て	苔	か	両	す	た	沙	を	れ	悲	石	も	ひ	わ	あ
恐	蠢	木	ま	た	き	む	ら	手	す	積	耶	垂	て	鳴	の	ち	い	っ	あ
ろ	く	の	じ	。°	た	し	何	を	す	年	ら	し	中	が	マ	ゃ	い	て	あ
し	低	激	い		手	た	か	ひ	凶	の	し	身	楽	シ	ン	の	い	ゆ	あ
い	級	しい	速		を	大	を	ら	悪	恨	て	が	し	ン	ガ	の	い	く	あ
衝	な	い	度		頭	き	上	の	に	み	い	ド	し	ン	ン	で	い	、	「
撃	妖	衝	で		上	な	げ	上	し	が	。°	ロ	よ	は	は	効	！	あ	は
波	魔	突	沙		に	岩	手	を	て	怨		リ	う	威	は	か	馬	は	は
だ	た	音	耶		上	が	の	ひ	い	念		と	が	力	は	ぬ	鹿	は	は
っ	ち	が	に		げ	ブ	ひ	ら	。°	が		出	な	を	は	わ	め	は	は
た	が	こ	向		て	ル	を	上		鬼		て	く	増	は	ら	わ	は	は
。°	一	だ	か		飛	ル	し	に		女		く	す	。°	あ	に	は	あ	あ
	気	ま	っ		ん	震	た	向		紅		、			あ	は	あ	あ	あ
	に	す	て		で	え	け	け		葉		沙			あ	は	あ	あ	あ
	消	る	飛		か	な	、	身		を		耶			あ	は	あ	あ	あ
	滅	。°	ん		か	が	、			蘇		の			あ	は	あ	あ	あ
	す		で				身			っ		想			あ	は	あ	あ	あ
			く							つ		像			あ	は	あ	あ	あ

の	浅	川	だ	沙	い	最	沙	を	か	壁	い	内	な	取	真	る	沙	た	一
剣	黄	島	。	耶	で	後	耶	見	れ	の	ほ	部	に	り	っ	衝	耶	。	瞬
「	色	は		の	ぶ	だ	を	て	た	周	ど	は	や	出	暗	撃	の		、
を	の	「		名	つ	っ	沙	沙	壁	り	朽	漆	ら	し	な	で	の		沙
見	刀	降		前	か	た	耶	耶	画	を	ち	の	か	。	祠	扉	に		耶
る	身	魔		を	っ	、	は	は	が	マ	て	中	。		の	が	あ		は
と	が	の		叫	た	大	目	目	あ	グ	い	、			中	開	っ		目
ブ	ブ	劍		び	の	岩	を	を	っ	ラ	祠				き	。			の
ル	ン	」		な	だ	が	輝	輝	た	イ	の				、				前
ン	と	を		が	。	ら	か	せ	、	ト	よ				ポ				が
と	伸	抜		ら		紅	っ	。	そ	で	う				ケ				真
身	び	い		紅		葉	て		こ	照	あ				ッ				っ
震	た	て		の		の	激		こ	ら	っ				ト				暗
い	紅	下		前		は	し		。	す	。				か				に
を	葉	段		に		は	い			と	古				ら				な
さ	は	に		走		沙	勢			い	い				マ				っ
せ	「	構		り		耶				描	漆				グ				。
、	降	え		こ		の				か	で				ラ				。
激	魔	た		ん		の				れ	描				イ				
痛		、								て	。				ト				
										い					を				
										た					を				

ら	な	を	マ	呪	こ	た	し	魔	空	劍	て	川	の	「	れ	わ	わ	っ	「	を
鼠	す	襲	シ	文	な	、	か	を	間	」	一	島	仇	お	る	、	、	た	ぐ	を
を	術	う	ン	を	い	紅	し	粉	を	か	気	は	、	の	わ	今	あ	ふ	堪	
じ	も	。	ガ	唱	。	葉	か	砕	を	し	に	下	、	れ	、	度	ば	う	え	
わ	無		ン	え		の	し	し	を	ら	降	段	そ	、	は	ず	。	よ	る	
じ	く		の	る		動	し	な	な	が	り	の	し	、	お	れ	。	う	な	
わ	身		の	紅		き	な	が	ら	ら	ぬ	構	て	、	前	紅	ひ	な	唸	
殺	を		よ	葉		を	が	ら	光	光	いた	え	沙	の	の	葉	い	り	声	
す	か		う	、		封	ら	光	の	の	、	か	耶	仇	だ	、	い	を	を	
よ	わ		に	激		じ	帯	帯	帯	帯	降	ら	の	！	恨	い	い	上	を	
う	す		飛	しい		な	は	紅	紅	り	ぬ	刀	思	み	を	い	い	げ	を	
に	川		ん	風		け	紅	葉	葉	か	か	の	い	を	百	、	い	な	を	
高	島		で	が		れ	葉	を	を	れ	た	刃	知	倍	人	、	い	が	ら	
笑	を		き	吹		ば	を	襲	襲	、	「	を	れ	に	の	、	い	ら	叫	
い	猫		て	き		勝	襲	う	、	走	降	上	！	返	亭	、	い	な	ん	
で	が		、	、		機	。		低	る	魔	向	知	し	主	を	い	が	だ	
追	遊		落	小		は			級	。	の	き	れ	て	を	寝	い	ら	。	
う	び		雷	石		見			妖		の	に	！	く	取		い	。		
紅	な		が	が		え						替	。	れ						
葉	が					て						え	」	く						

激痛の中、驚く紅葉が見たのは深々と刺さっ	る紅葉。	げて額から稲妻と黒い煙を吐きながら悶絶す	地獄の蓋が開いたような、恐ろしい悲鳴を上	紅葉の額に深々と突き刺さった。	しかし矢は徐々に速度をあげ、猛スピードで	起こし矢を避けようとした。	恐るるに足りんわ！」と言うと右袖で突風を	紅葉は「馬鹿め！そのような、おもちゃなど	が一直線に飛んでくる。	もに、短い発射音が聞こえたオレンジ色の矢	そして「紅葉覚悟 妖魔退散」と言う声とと	の枝からキーンという音が聞こえた。	変身した。と、その時だった、大きな杉の木	ドーンという音とともに紅葉がひと際大きく	エクスタシーすら感じているようだった。	紅葉は川島を頭から食い殺す快感に酔いしれ	段の構えを取った。	これを最後と目を瞑り覚悟を決め得意技の上	岩肌がそそり立つ岩壁に追い詰められた川島
----------------------	------	----------------------	----------------------	-----------------	----------------------	---------------	----------------------	----------------------	-------------	----------------------	----------------------	-------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	-----------	----------------------	----------------------

な	蒼	た	「	そ	最	叫	っ	力	の	紅	沙	見	「	そ	て	慈	れ	そ	た
反	く	の	降	の	後	び	っ	尽	を	葉	耶	え	破	れ	い	覚	れ	れ	た
射	燃	だ	魔	紅	の	声	っ	き	発	を	が	な	邪	故	た	大	は	は	矢
運	え	。	の	葉	薄	を	っ	て	見	打	祠	な	の	に	の	師	「	「	に
動	上		劍	の	笑	上	っ	落	し	ち	に	か	弓	長	だ	直	悪	破	長
を	が		」	顔	い	げ	っ	ち	た	落	落	っ	」	年	っ	筆	鬼	邪	年
繰	る		が	が	を	て	っ	て	た	と	ち	た	「	に	。	の	平	の	に
り	炎		紅	一	浮	落	っ	ゆ	の	し	た	。	降	渡	だ	「	伏	を	に
返	、		葉	氣	か	ち	っ	く	だ	た	矢		魔	り	っ	」	し	隠	に
し	頭		の	に	べ	て	っ	紅	。	に	に		の	簡	。	の	て	し	に
な	と		首	ゴ	る	ゆ	っ	葉		御	見		劍	単	だ	経	い	行	に
が	別		を	ロン	紅	く	っ	は		札	つ		」	に	文	た	た	旅	貼
ら	れた		一	と	葉	沙	っ	最		が	け		が	見	が	の	い	に	ら
蒼	た		氣	地		耶	っ	後		巻	た		妖	つ	書	の	た	に	。
い	身		に	に		、	っ	の		か	壁		魔	か	か	経	た	に	。
炎	体		斬	落		そ	っ	力		れ	画		た	る	れ	文	た	に	。
に	は		り	ち		れ	っ	を		て	、		ち	あ	。	が	た	に	。
包	不		お	た		を	っ	振		い	大		に	ろ	書	が	に	。	。
ま	自		と	、		見	っ	り		た	昔		は	う	か	書	に	。	。
れ	然		し	、		て	っ	絞		。	、		は	。	れ	か	に	。	。

よ	青	な	逃	「	弓	キ	で	蒼	「	ち	沙	一	り	そ	っ	高	っ	急	重
う	い	っ	げ	妖	を	ー	天	く	青	を	耶	瞬	り	の	っ	い	ぎ	い	
に	球	て	惑	魔	い	ン	空	燃	い	繰	の	で	沙	時	て	木	し	音	
黒	の	空	う	退	っ	と	に	え	球	り	無	飛	耶	だ	飛	ま	沙	を	
い	破	中	青	散	ぱ	い	飛	る	を	返	事	ん	の	っ	ん	う	耶	た	
雲	片	に	い	」	い	う	だ	紅	撃	さ	を	消	身	た	で	の	の	て	
が	が	霧	球		に	金	！	葉	っ	ぬ	確	え	体	、	い	か	元	て	
広	ま	散	は		引	属		の	て	よ	認	天	を	天	と	走	崩		
が	る	し	矢		い	音		首	く	う	し	空	受	空	る	川	れ		
る	で	た	で		て	、		か	れ	言	た	か	け	か	島	、	た		
空	青	。°	打		こ	沙		ら	！	っ	川	ら	止	白	、	ま	た		
に	空		ち		う	耶		青	」	た	島	白	め	黄	た	た	愛		
芽	の		抜		言	は		い		た	は	黄	て	色	沙	愛	す		
を	種		か		っ	美		球		た	安	色	地	の	耶	す	る		
出	に		れ		た	し		が		た	堵	面	面	光	は	人	を		
す	で		バ		言	い		猛		た	と	に	下	が	岩	を	失		
よ	も		ラ		っ	立		ス		た	も	下	ろ	壁	壁	を			
う	な		バ		た	ち		ピ		た	に	ろ	し	に	向				
に	っ		ラ		言	姿		ー		だ	過	し	光	向	か				
真	た		と		っ	で		ド		。°			は	作	か				

